



ここが大好きメキシコ！



料理：メキシコの代表料理といえばやはりタコス！生地やサルサソースの作り方からも、未だ先住民文化が残されていることが分かる、実は大変奥深い食べ物なんです。

最初に

2016年8月から2017年8月にかけての、一年間のメキシコ留学が無事終了しました。渡航前に想像していたメキシコ像を、いい意味で覆してくれた留学生活ですが、それを熱意を持って伝えても返ってくる言葉の多くは、「でもやっぱりメキシコって危ないんでしょう?」。悔しいですが、私もこの留学を経験していなければ、メキシコをそのように解釈していたと思います。今回は最終レポートということで、なぜメキシコ留学を決意したのかやメキシコ生活を振り返ることはもちろん、メキシコに留学、旅行してみたい!と思ってくれる方が少しでも増えるようなレポート作りを心掛けました。是非、最後までお読みください。



旅行：「死ぬまでに訪れたい場所」にも数多くランクインし、世界遺産保有数世界第7位を誇るメキシコ。先住民が未だ多く住む南とアメリカ国境沿いの北とは全く異なる顔を見せてくれます

ここが変だよ、メキシコ人

もっと掃除してメキシコ人!

メキシコ人の多くは掃除人を雇い、自ら掃除をしようとしません。理由は「掃除人を雇って彼らに職を与えているんだ。自分で掃除したら、彼らが職を失うだろう?」と。優しいのかただの言い訳なのか…。

ご飯のお供にコーラ?!

メキシコ人はタコスなどを食べる時コーラを頼む人が大半。日本人には少し奇妙な光景です。ただメキシコのコーラはサトウキビが使われており、日本のより格段に美味しい。肥満国第一位になる理由も分かります…。

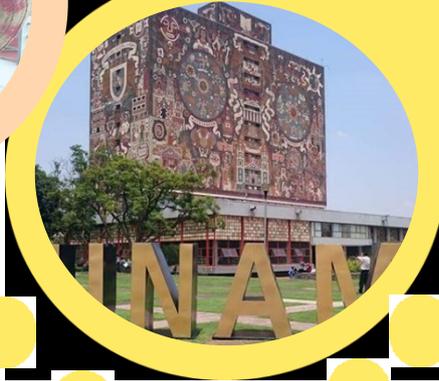
すごい寂しがりや?!

世界で一番SNSを使う時間が多いと言われ、メキシコ人はSNSでいつでも友達とやり取りをしています。「今日は2回しか連絡出来ないなんて、私のこと嫌いな?」なんて言う人が多い…彼女がメキシコ人だと大変そう…



アミーゴ！：アミーゴ社会と言われるほど、メキシコ人はフレンドリーでオープンな性格をしています。出会ったその日からもう友達。面倒見もよく、困ったことがあればすぐ助けてくれます。

そもそもなぜ メキシコへ？



メキシコへ留学をしたきっかけは、「ご縁」という言葉が一番正しいと思っています。というのも、大学入学時には英語圏であるアメリカ、もしくは第二言語でスペイン語を学んでいたということもあり、スペインに留学を考えていたのが、様々なメキシコ人と出会い、言語交流等を通して彼らと時間を共有するうちに、いつしかメキシコ留学を目標にするようになったからです。

私が通っている埼玉大学は、毎年数名メキシコ人留学生を受け入れており、この数は他国の留学生に比べても比較的多い印象です。これは埼玉県が国際化に力を入れ、グローバル活動を推進していることが理由の一つだと思います。メキシコのメキシコ州と埼玉県とは姉妹提携関係を結んでいます。その関係で、メキシコ州からの留学生のうち、メキシコ州都のトルーカ市にある UAEM(メキシコ州立自治大学)という大学からの留学生が多くを占めています。彼らと交流するうちに、自然とメキシコ留学を視野に入れるようになっていきました。

大学の交換留学を通してメキシコ留学を決意するものの、そこで立ちはだかったのは金銭的問題でした。3年生で留学を決意したため、1年間留学をするととなると、卒論や就活の関係で5年間大学にいないわけにはいきません。そこで一度は留学を諦めましたが、大学の教授から、「日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画」(以下、日墨研修と略)での留学を進められ、一年間休学して留学に行けること、また奨学金等の援助が充実しているという点でこの日墨研修での留学を決めました。全国から20名程度選抜しメキシコへ派遣という厳しい基準の中、埼玉県はその中から2名~3名を推薦することが可能で、埼玉県在住の私はその推薦枠の一人として奨学生に選ばれました。

埼玉県のグローバル活動の推進活動が、私を多くのメキシコ人と出せわせ、留学の機会を与えてくださいました。この留学で築かれた「ご縁」を、これからも大切にしていきたいです。

メキシコにおける日本語学習者の特性

国際交流基金(2011)によると、メキシコの日本語学習者はスペイン語圏で最も多く、その数は約7500人と2位のスペイン(4000人)をはるかに上回っています。これはメキシコには日本の文化に興味を持ち、日本語を勉強したいという人が多いことがうかがえます。またメキシコは日本企業の進出が加速しており、そのため日本語・スペイン語通訳者も求められているため、一定の日本語能力が就職への強みにもなるそうです。

- ・ 目標にしていたこと
- ・ 勉強方法
- ・ 帰国後について



渡航前の目標は、スペイン語の習得はもちろんのこと、帰国後の大学の研究に役立てられるような知識を身に着けることとしていました。大学の研究というのは、主にアメリカ本土を中心とする国際関係を指しています。メキシコはアメリカ本土と接しており、政治や経済等で関わりが多い国ですので、以前からメキシコへの関心はありました。ただ恥ずかしながら、それについてスペイン語で学ぶ言語能力は渡航当時持ちあわせておらず、まずは語学学校にてスペイン語を一定のレベルまで上げることが先決でした。

渡航後すぐに語学学校でのレベル分けテストがあり、そこでのレベルはBasico2(初級2.)で、レベル0~8まであるなかで下から三番目のクラスでした。「文法は理解できているが、スピーキング能力が乏しく会話の練習が多いクラスの履修が望ましい」と判断されましたが、最初はこの結果に落胆し、留学への不安がピークに来たのはこの瞬間だったと思います。この結果より、半年間ほどは語学学校のスペイン語の授業に集中し、UNAMの大学内の授業は2月から始まる、次のセメスターから取ることに決めました。ここからは、その半年間どのようにスペイン語力をつけたのかについて、勉強方法等をご紹介します。

始めの初級2のクラスでは、先生に質問される初歩的な内容さえ理解できず苦しむくらい、スペイン語能力が乏しかったため、新聞や映画からスペイン語を学ぶことは難しい状況でした。

そのため、まず取り掛かったのは語学学校で使っている初級2のクラスの教科書にある長文の早読、また日本から持ってきた「耳が喜ぶスペイン語、フリオ・ビジョリア・アパリシオ著」というリスニングに特化した参考書を使った勉強です。毎日1記事以上読む、交通機関での移動時はリスニングをするなどと自分で目標を決め、ほぼ毎日こなしていました。ただこれは日本でもできることではあるので、毎日メキシコ人の友人と会い話すことに一番重きを置いていました。このような生活をほぼ毎日続けていたためか、半年後には耳もだいぶ慣れました。辛かったですが、この生活のおかげで、2月から始まるUNAMの授業で北米関係史の授業に臨むことができました。残りの半年間は映画や新聞によるスペイン語の向上に励み、月に3回か4回は映画館に行く、または家で映画を見ていました。一人旅に挑戦したのも、渡航後8か月くらいたった時だと思います。

上記のように一年間を有意義に過ごさせていただいたおかげで、スペイン語もかなり上達し、メキシコから見る北米関係史も学ぶことができたため、悔いがなく帰国することができました。日墨研修を通し同じ学年の友人が6名渡航しましたが、ほぼ全員が帰国後も口をそろえて言うのは、「今後もスペイン語と、メキシコと関わっていきたい。」ということです。私も同じ気持ちであり、これからもスペイン語の勉強に励み、将来何かしらの形でメキシコと関わっていけたらなと思っています。

交換留学と日墨研修の違い

まず大きな違いは、日墨研修は団体で派遣されることと、一定のスペイン語力に達するまで語学学校の授業の履修が必須条件なことだと思います。メキシコの医療保険も自動的に加入され、十分な額の奨学金がもらえるというのもこの研修の大きなメリットです。家探しも住居リストが渡され、ボランティアのメキシコ人が住居探しを手伝ってくれるなど、このような面では交換留学の方の方が一人の不安などは大きいと思います。ただ団体というのにもデメリットはあり、例えば30名程の日本人が一気にメキシコへ派遣され、小さな語学学校で勉強するということです。ただしこれも、一見スペイン語を学ぶ環境には不向きのように思われますが、日本人とばかりつるまない、メキシコ人との時間を大切に作るなどの自分ルールを作れば気になる問題でもありませんでした。そして語学学校の授業履修が条件な件ですが、留学してすぐにインターンシップ、ボランティア等活動をしたい人にはデメリットかもしれませんが、



中々そのような目標を持つ方も少ないでしょう。また奨学生の中には、語学学校を出た後に語学力が落ちた、停滞しているという人もいましたし、一度語学学校を出て別の機関(インターンシップ等)に行ったけど、語学学校へ戻ってきたという人も2名いました。そのため結果として、その必須条件が私たちの語学力向上に繋がったため、これも私はデメリットには感じていません。

そして交換留学で留学する人は、年の近い学生と話す機会が多く、逆に社会人の方と出会う機会には中々ないのではないのでしょうか。日墨研修では、このプログラムを使って派遣される社会人の方が多く、私が派遣された年は6割~7割が社会人の方でした。職種も様々であり、一年間スペイン語を学び、帰国後身につけたスペイン語を職場で生かすために会社から派遣された方、また会社を辞め、メキシコで職を探すために一年間日墨研修でスペイン語を学ぶという人もいらっしゃいました。その方たちのおかげで、メキシコで既に勤務されている何人かの日本人にもお会いでき、お話しできたこともまた留学生生活を豊かにしてくれた一つの理由だと思っています。

冒険好きな人にはここ！チワワ

メキシコの北部に位置するチワワ州にはバランカス・デル・コブレと呼ばれる峡谷があり、海拔 1500~2400 メートルの山脈にあります。なんと、アメリカのグランドキャニオンの 4 倍の大きさ！！ここでは様々なアクティビティを行うことができ、例えば長さ 2 キロの、世界で一番長い ZIPLINE や、崖の上を綱渡りするなど、スリル満点な経験を楽しむことができます。そして、チワワ州の端から端までを横断する列車、CHEPE も有名です。列車から眺める景色も壮大で、メキシコシティのような都市部にはない光景を見ることができます。



勝手に選出！！

メキシコおすすめスポット

先住民文化に触れたいならここ！

オアハカ

オアハカ州の中心部を歩けばシティとのある差にすぐ気づくでしょう。それは、街に暮らす先住民の多さです。道を歩けば、道端で民芸品を作り売っている人や、先住民の伝統的な服を着て街を歩く人もいます。オアハカの面白さはそれだけではありません。オアハカには絶景が多くあり、例えばイエルベ・エル・アグアには、「時が止まった石の滝」と呼ばれる滝のように見える天然岩石の集合体があります。その他にも中央アメリカ最古の遺跡、モンテ・アルバンや、アメリカ大陸最大の木、エル・トゥーレなども見どころです。そしてなんといっても料理がおいしい！モレやトラジャーダなど、オアハカ発祥の料理がたくさんあります。メキシコ人曰くオアハカは住みたい街第 1 位なんだそう。



カリブ海でバカンスしたい人はここ！

カンクン

カンクン

青い海と白い白浜が世界中から愛される、メキシコ随一の観光スポット、カンクン。新婚旅行先でも選ぶ人が多くなっているそう。海の透明度の高さも魅力の一つです。世界中の観光客を魅了する理由は海だけではありません。マヤ族が建設したと言われるチェチェンイツツアや、セノーテと呼ばれる洞窟もまた絶景スポットです。セノーテとは地表にできる陥没穴で自然が生み出す絶景であり、潜ってみると、その透明度の高さに人々は驚かされるでしょう。ライセンスを持っている人ならすぐにダイビングを楽しむことができます。カンクンから車で約 3 時間。話題沸騰のピンクラグーンも見どころの一つ。見学や野生のフラミンゴ観察ができます。



最後に

-No hay mal que por bien no venga.-

これはメキシコで聞かれることわざであり、ホームステイ先の家族や友人が私に教えてくれたことわざです。直訳では、良いことが再び来ないくらい、悪いことなんてない、という感じですが、日本のことわざでいう、失敗は成功の元のように使われます。ただ違う部分は、日本は「失敗することで成長する、成功する」と、失敗を土台にしていますが、メキシコは、「失敗は振り返らず、失敗の中にも良いことはあったし、これから良いことをもっと増やしていこう！」という感じで使われ、このことわざに、両国の性格の違いを感じました。別のレポートでも紹介しましたが、年明けに話すことは前年の失敗から学ぶ抱負ではなく、嫌な過去は全て忘れて、その一年楽しく過ごすために何をしたいかなのです。このことわざを聞いて、メキシコを心から好きになりました。私の性格がメキシコに合っていて、私が留学で選ぶべき国はメキシコで間違いなかったと思わせてくれたからです。帰国後も、メキシコで学んだことが私を前向きにさせてくれ、心も豊かになったような気がします。

またメキシコの伝統工芸品にはビビッドでカラフルなものが多く、組み合わせでいいの?!と思うような色を組み合わせますが、それがまたいい味を出します。これもまたメキシコ人の性格をよく表しており、自分に変にルールを作らず、個性を出して生きていくことが上手だからこそできる工芸品だと思います。ルールを作って、自分を制御して生きてしまいがちですが、メキシコ人のように自分をカラフルに彩って生きていけたらと思います。

私にとってメキシコは、本当に「魔法」のような国です。様々なことを与えてくれたメキシコと、今後もさらに深く関わっていけたらと思っています。